

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272401173		
法人名	株式会社デジジョン		
事業所名	グループホームぬもりの家君塚		
所在地	千葉県市原市君塚3-22-1		
自己評価作成日	平成24年9月29日	評価結果市町村受理日	平成25年1月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成24年10月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者権利擁護、身体拘束廃止、BPSD対応、実践リーダーなど施設外の研修を積極的に受講し職員全体のスキルアップに努めている。介護従事者の記録の書き方の研修も受講し、記録の目的を全員でしっかり認識し、個人記録の改善に取り組み、現在もより良いものとなるように努力している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、認知症についてもっと知る・身体拘束や自立支援についてもっと知り実践に繋げるため、外部研修受講 伝達研修を通して、職員全体のスキルアップに意欲的に取り組んでいる。記録の書き方などの研修を通して記録の意義・目的・大切さなどの認識を高めている。職員全員がケアプラン作成とモニタリングに関わり、日常のケアサービスに活かし、「入居者の意思・人格を尊重し、心に『やすらぎ』を、家族に包まれた『ぬもり』が感じられる生活を目指します」との理念の実践に着実に取り組んでいる。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	権利擁護、身体拘束、BPSD対応研修などを受講し、全体会議での研修報告にて職員全体のスキルアップに繋げ、理念の実践に努めている。	認知症についてもっと知る・身体拘束や自立支援についてもっと知り、実践に繋げるため、外部研修受講 伝達研修をし、職員全体のスキルアップを図り、理念の実践に着実に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りやお祭り、敬老会に参加している。偶数月にはぬくもり便りを作成して町会や小学校へ届け、中学生の体験学習の受け入れも行なっている。	地域の夏祭りや敬老会に参加したり、小学校の運動会に席を設けて頂いて参加したり、体験学習の受け入れや町探検の生徒の受け入れなどを行っている。ぬくもり通信を町会や小学校に届けたり、町会の回覧板に入居者の様子や認知症の症状などを載せ、地域に溶け込む工夫をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会への回覧には、行事での入居者の様子や認知症の理解を深めて頂く為に認知症とは・・・と症状の説明を毎回載せている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や町会、地域包括支援センターの方へ出席して頂き、外部評価の報告や意見交換を行なってサービスの向上に活かしている。回数を増やす取り組みは、まだ出来ていない。	家族・町会の方や地域包括職員等の参加を得て、行事報告・外部評価結果・地域との交流などを議題とし、活発な意見交換が行われている。一度は避難訓練にも参加して頂き、町会の方に入居者の見守りに協力して頂く等、運営推進会議を活かす取り組みがなされている。	年間開催日程を事前に決めてお知らせしたり、ホームの行事開催時を利用する等、2ヶ月に一度開催する工夫をされることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの協力で、介護予防教室を開催し、近隣住民の方にも参加して頂くことが出来た。	日頃から連絡を密にとり、協力関係は築けている。地域包括支援センターの協力を得て、介護予防教室をホームで開催し、近隣の方々にも参加頂く等地域との繋がりにも結び付けられた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の受講をして、職員全体の理解を深め現在、身体拘束は行っていない。出入口の施錠はすぐに階段があり、危険な為継続している。	権利擁護・身体拘束・虐待防止の外部研修受講 伝達研修実施により、職員全員の理解と認識を深めることが出来た。特に人格の尊重と身体拘束、言葉による拘束などの認識が高まってきている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員がいて、問題があればすぐに対応出来る体制になっている。 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の受講をして、全体会議で職員全員が知識を共有出来る様に研修報告を行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書を読み、不明点は質問を頂いている。変更事項が生じた時には、書面にて連絡し、場合に応じて家族が集まる際に説明を行なっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望は、月に一度開催している運営会議や全体会議で検討している。	毎月居室担当者がカラー写真付きの手書きの手紙を送っており、大変好評であると同時に色々な意見もお寄せ頂いている。運営に関する意見については運営会議で検討し反映させるようにしている。要望のあった家族の連絡網について、今検討中である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書の投書箱を設置して、提案がある場合は、月に1度の運営会議で検討して全体会議で報告し、必要があれば再検討し運営に反映させている。	業務改善提案書制度があり、毎月のように改善提案が出ている。窓を開ける為の外柵の設置、自動点灯・自動出水装置の変更や2ヶ月一度の訪問診療を毎月に変更する等、運営委員会で検討し全体会議で報告する等運営に反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在は人員確保が出来ており、必要最低限の残業となっている。パート職員にも行事担当の中心となってもらい、社員がサポートをしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に取り組み、全体会議での研修に繋げている。勤務体制を見直し、単独での介護を減らし確認や指導が出来る体制としている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内のグループホームでは、合同会議を開催して問題点など検討する機会を設けているが、外部との交流は図れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の思いや要望を聞き出す事が困難なことも多いが、事前の情報収集や行動の観察、本人の言葉をよく聞き取り、情報を職員で共有し安心して生活できるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に家族から要望及び入居にあたっての不安を聞き、要望や不安を踏まえたサービス計画の作成をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時にアセスメントを確実に取り、必要なものを見極めてサービス計画の作成をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>研修の受講などにより、職員の立場や入居者の立場を以前よりは理解し対応出来るようになってきている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には面会や行事への参加をお願いし、共に支えることを確認して、一緒に過ごす時間を作っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>親戚や知人の方の面会があり、気軽に来られるような雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>住んでいた近所の方や友人・知人・親戚の方など馴染みの方に訪ねてきて頂き易いよう心掛けている。家族とお墓参りに行く方や馴染みの美容院に行く方もいる。また手紙のやり取りのお手伝いなどもしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>両ユニット合同で体操やカラオケ、ゲームを行ない全員で楽しめて、関わり合いが持てる機会を作っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の相談や支援まで応じることは、今のところ出来ていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は出来るだけ実現出来る様に努力している。本人から聴くことが難しい場合は、言葉や行動などを観察して本人の気持ちを理解するように努めている。	会話で思いや意向を伝えられない方でも、生活歴や職員・家族の情報、入居者の仕草などから入居者の思いを推測して対応している。例えば食事についても、入居者の食事をする様子を観察することにより最適な食の形態に変更するなど工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活環境等の情報を、本人や家族、担当のケアマネから収集して、職員全員で共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態を常に観察し、新たな情報や変化があった場合は記録に残し、職員全員で共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議でモニタリングを行い、職員間で意見を出し合い検討している。ケアマネが家族と密に連絡を取り意見や意向を聞き、医療関係者とも連携をとってプランを作成している。	職員には月に一度の全体会議にて、サービス内容が適切かどうかや気づいたことなどを発言してもらい、ケアマネジャーが家族の意見も聞き、プランへと反映させている。「介護記録」ファイルに「サービス内容」を行えたかどうかチェックする欄を設け、職員が毎日プランの内容に目を通せるようになっている。サービス担当者会議では本人、家族に参加してもらい、看護師が同席することもあり、夫々の意見を反映した現状に即したケアプラン作成に努めている。	時々刻々と変化する入居者の状態を日常的に職員全員から意見をとりいれる仕組みを検討しており、「本人の言葉、様子、気づき」などを全職員が記入するモニタリングの書式を作成中とのこと、実現されることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方の外部研修に参加し、全体会議で職員研修をして、記録の書き方の見直しを行なった。職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かせるように努力している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があった場合は、カンファレンスを行い、ニーズに対応出来るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、施設内のイベントにはボランティアによる踊りや歌を楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族希望のかかりつけ医となっている。現在は、ほとんどが提携病院をかかりつけ医としている。2ヶ月に一度の訪問診療の受診と月2回の訪問歯科受診を行なっている。	受診に同行した家族からの情報や看護師からの意見も「介護記録」に記入し職員で共有している。かかりつけ医以外にも皮膚科・眼科・整形外科への通院と訪問歯科受診がある。訪問診療時には看護師も立ち会う。薬の変更時には「介護記録」と「申し送り簿」に記入し、情報共有が徹底されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が非常勤である為不在時は、連絡ノートや看護師専用の携帯電話で相談し、指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、状態を把握するため家族や病院と連絡を取り、再入所が可能であるか相談をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から個別に話しを聞き方針を共有し、必要時は早い段階で家族との話し合いをしている。	ご家族には、急変時の搬送病院の希望や延命処置を希望するかの確認を行っている。現在、ターミナルケアは行っていない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で看護師による研修を行なっている。実践に活かせるように、定期的に行いたいと思っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火防災委員会や運営推進会議にて、協力体制について話し合っている。マニュアルを作成し、年2回の避難訓練には、地域の方も参加している。職員の夜間招集訓練の実施もしている。	火災のマニュアルを作成済みで、地震のマニュアルも作成中。夜間召集訓練も行い、職員へ一斉メールを行う仕組みも整えた。避難訓練に町会の人や家族にも参加して頂いた。会議で消火設備の場所・使用方法の確認も行っている。家族から要望があり、家族の連絡網作成に向け準備中である。備蓄は食料・水・介護用品も含め、三日分を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応ができるように、施設外の研修に参加し、施設内でも話し合い努力している。	入居者に対して、「して」ではなく、例えば「一緒に行く？」など言葉づかいに配慮している。また、入居者の行動に対しても「ダメ」ではなく、まずは「ありがとう」と言葉をかけ対応していくことを心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が少し困難な場合、本人の行動や言葉を聞き取り、出来る限り行動を制限したり、無理強いをしないよう気をつけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示が出来る方は少ないので、様子を見て本人に確認を取りながら、個別に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室担当の職員が、誕生日のお祝いに家族の許可を得て、本人と一緒に帽子など好みのものを買いかけています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に合わせて、見守りや声掛けをしながら、準備や片付けを手伝ってもらっている。	副食は給食業者が調理し、ユニットでご飯と汁物の調理や刻みの対応をしている。汁物の調理や、おかずの盛り付け、食器拭き、おやつ作りは入居者も一緒に行っている。年に一度、外食を楽しんでいる。入居者の誕生日には喫茶店でケーキを食べお祝いすることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	中間記録用紙を使用して、一日の食事量や水分量が把握出来る様にし、少ない場合は工夫をして提供できるように努力している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて、見守りや声掛けや介助にて、口腔ケアを毎食後行っている。必要な方は、訪問歯科で歯垢除去も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	三分の一の方が布パンツ、その他は日中リハビリパンツを使用している。排泄チェック表を用いて、汚染がないように声掛けや誘導をし、清潔保持にも努めている。	早めの声かけを心がけている。夜間のみ、おむつ使用とポータブルを使用の方がいる。汚染時にはホットタオルで対応している。パッドでも種類の変更を行うなど、それぞれの方に合わせて支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて把握をし、看護師に相談しながら緩下剤や下剤の調節をしたり、牛乳等の水分摂取を促したり、中庭にて身体を動かすよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事にて入浴を中止する以外は、毎日行っている。時間は午後と決めているが、希望があれば先かまたは後がよいかを確かめて対応をしている。	体調が許せば長湯を希望の方にはゆっくりと入っていただき、お一人で見守り対応としている。利用者同士での入浴を楽しむ方々もいる。ゆず湯や菖蒲湯も行っている。手すり、シャワーボード、シャワーチェア、浴槽台、移動用リフトの吊り具も設置され、それぞれの方に合わせた支援が可能となっている。個人専用の洗面器や、シャンプー・リンスをお使いの方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中リビングの椅子で傾眠されている方には、声掛けをして居室に誘導して休んで頂いたり、夜間は季節により、湯たんぽや電気毛布を希望される方には、用意や温度調節の支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の間違えがないように、二重チェックをして防止に努めている。薬変更があった場合は、バイタルや様子を観察して変化に注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字や生け花など得意する事をお願いして、役割を持てるよう支援している。コーヒー好きの方には、ソーサー付きのカップを用意し毎日提供して、よく通っていた喫茶店気分を味わってもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	対応出来る時は個別に散歩やドライブに出掛けることもある。本人の希望で週3回の家族との外出を行っている方もいる。日常的には、近くの公園によく散歩に出掛けている。	天候がよければ全員に声をかけ散歩している。夏の暑い日には夕涼みや草取りなど外気にあたるよう工夫されている。ドライブに出かけることもある。お花見はお弁当を持参して全員で出かけ、楽しむことができた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が出来る方には、お小遣いを少し持ってもらい、職員と買い物に出かけた時に使えるようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を使用できる方は、自由に使用している。手紙は書いたものを職員が頼まれて、投函している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や中庭には季節の草花を植えるようにしている。庭の花を切って入居者が花瓶に生けてリビングに飾る事もある。リビングは温度調整を心掛け居心地良く過ごせるように努力している。</p>	<p>階段は両側に手すりが設置されている。手洗いは自動となっているが、手動のものもある。リビングは中庭に面しており、天井は高く天窓が設置されており開放感のあるスペースとなっている。リビングのソファでは入居者のくつろぐ姿がみられた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自席だけでなく、長いすを用意して自由に座れるようにしている。自ら隣のユニットに行って話しをする方もいる。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使用していたタンスや仏壇を持ち込まれていたり方や色紙や家族写真を飾っている方もいる。</p>	<p>居室のドアには鍵がつき、施錠される方もいる。共有スペースに面した壁に小窓のある部屋もある。テレビや冷蔵庫、ベッドなどをお持ちになっている。布団を使用し、上げ下ろしを自分で行う方もいる。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の部屋が分かるように目印を付けたら、夜間のみポータブルトイレを使用し、安全に排泄が出来るようにしている。</p>		